



鉄槌の女戦士

魔物に負ける妄想
死にぬより酷い目にあう
をこじらせ



私は鉄槌の戦士
ベルマリア

自慢じゃないけど
力では誰にも
負けないと思うよ

ベルマリアに
続け!

団長遅えっす

でも決して
無敗じゃない

あいつが前に
出過ぎだよ!!





負けたくない
折れたくない
こんなところで
終わりにたくない

魔物の慰み物となる
日々を耐え続け
いつか逃げ出す日の
ことを思い続けた



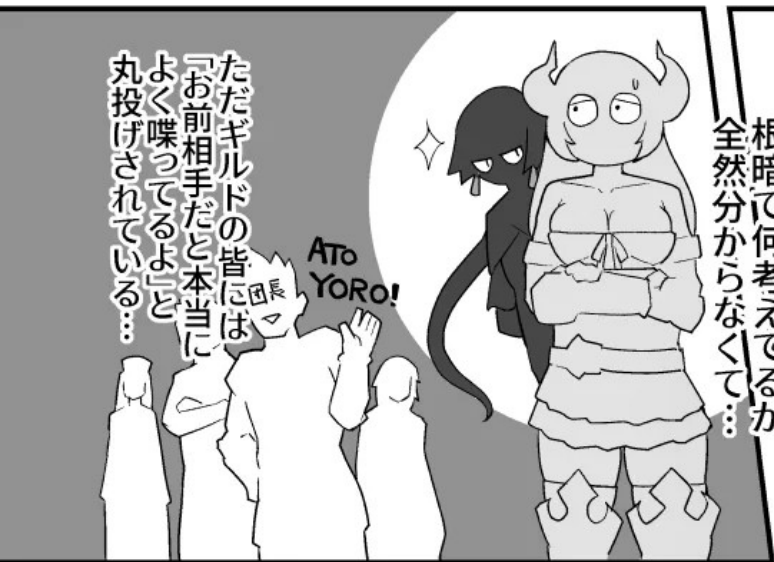
しかし…



同じ土地にはいられず
新しい場所でも私は
戦士として再起した…



魔物共のスギを
見て逃げ出せたのは
それから一年後





…だつたら何!!
言いふらす気!!?
何が目的なの!!

魔物に敗けて
犯されたとか?

びび

ハッ



…ぐちゃぐちゃや
掻き回されて…

泣いても叫んでも
やめてもらえなくて
心が壊れそうなのを
必死で耐え忍んで…

でも身体が忘れてない
力づくで組み伏せられ
犯された快感が…

フッ

そんなっ…
こと…ない…

ハッ

びび

ハッ



貴女の意識が散漫に
なっていたことは
皆が気付いていた

悪あがきで投げ
つけられた棍棒を
貴女はあわてて
全力で弾いた



弾いた棍棒の
行き先にまで
気が回らず…

よりもよつて
療術師に直撃

依頼を放棄して
逃走せざるを
得なかった



メンバーの一部からは
「ベルマリアの除名」
という声も上がっている

皆分かっているのよ
次はケガじや済まない

それも…
貴女以外の誰かが

それを私が何とから
出来るって言ったら
どうする？

チヤレ…



なぜ嘘をつく
必要があるの？

ほ…本当に？

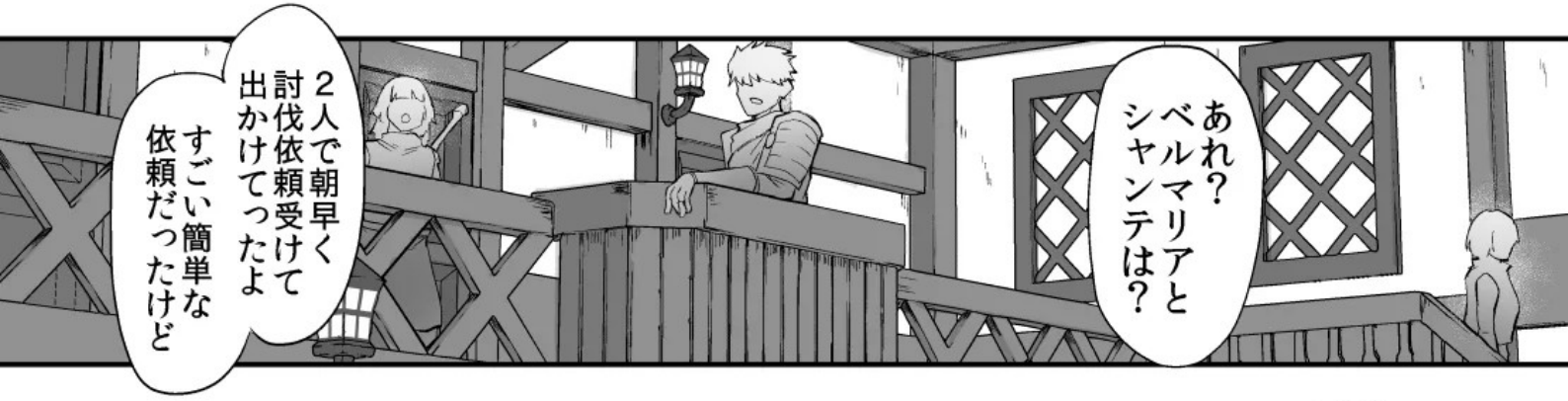
私たちは……
…仲間よね……？

ズ

ズ

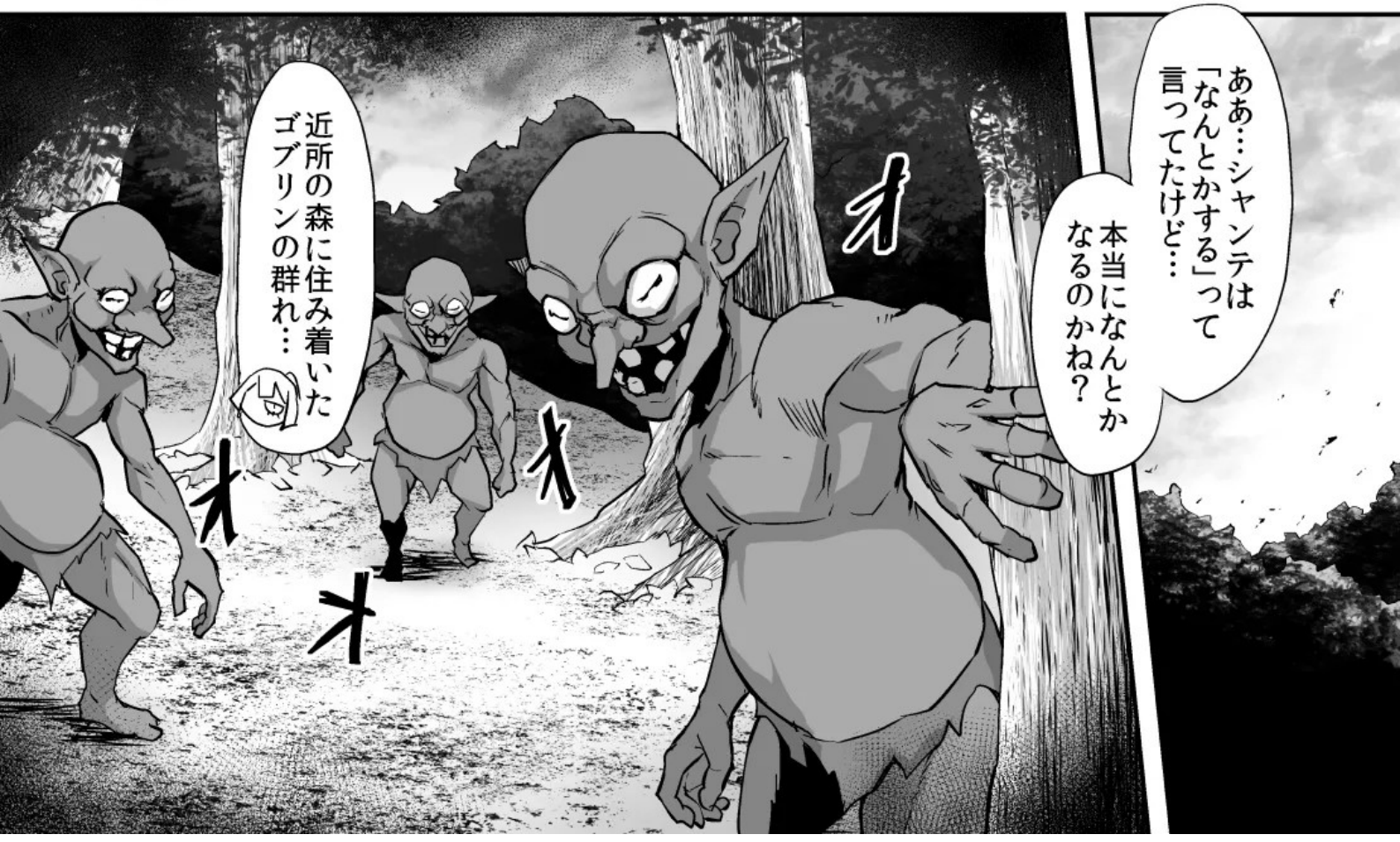
ズ

ズ



あれ？
ベルマリアと
シヤンテは？

2人で朝早く
討伐依頼受けて
出かけてったよ
すごい簡単な
依頼だったけど



ああ…シヤンテは
「なんとかする」って
言ってたけど…

本当になんとか
なるのかね？

近所の森に住み着いた
ゴブリンの群れ…

オ

オ

オ

オ



当然ッ！素手
でも余裕だよ！

この程度の
相手：
貴女なら目を
つぶつても
勝てるわよね



おっ!?
ガッ!

では試して
みましょう

あえ？

オオオオ
オオオオ



ダメッ
引つ張つたら…

グイッ

ぷるん♡

なんでっおかしいッ
こんな相手に私ッ…!?

ああっおっぱい
見えちゃっ…

シヤンテッ
シヤンテどこ!?

ホントにヤバい
からあつ!!

くぱあッ

ああっ!?





押し返せ…
なああ…ッ

ビビッ

シヤンテ助けてっ!
見てるんでしょ!?

ホントに
犯され…あッ

やっあ…

ムンッ

ずん

ビクッ

ギィッ

チキ

ビク

ブルッ

ゲゲ

ゲッ

ぷる

ぷる

本気で押ししてるのに
全然びくともしない

全力で抗っても…
敵わない！

これじゃ昔と
一緒だよ…



なのにごっつして

ひゃあつ♡
乳首だめっ
ああつ 乳首
出ちやう…

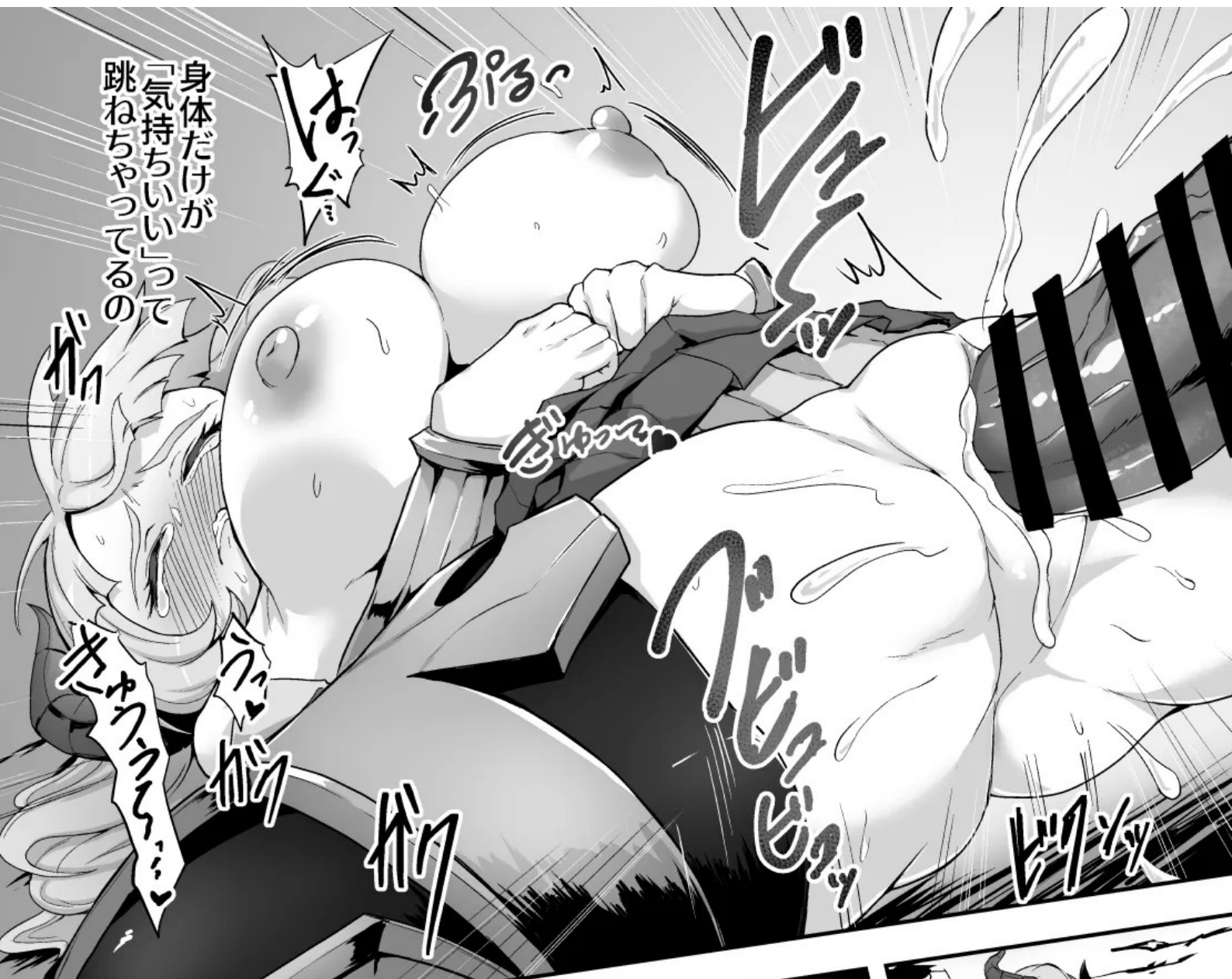
どうして…



乳首だめ
なのお…♡

ビクビク
するう…♡

びく



身体だけが
「気持ちいい」って
跳ねちやつてるの

はっ
ビョッ

ビョッ

びゅん

ハッ
ビョッ
ビョッ

ハッ



こんなの私じゃない
絶対に間違ってる

間違ってるのよ...

アッ
アッ

ズル
アッ



ハッ
グッ

ハッ



そんなの
惨めすぎるよ…



…あれ？

もう…
離してっ！

グワッ



最近のベルマリア
戦闘中に謎にポーッ
とするの滅つたよな

それでその2人は？

今日は街外れに
出たワールフ
の討伐だったか…

何でもいいけど
解決するなら
いいことだよ



シヤンテえ！助けてえ！
これホントにダメだったて！

食べられちゃう！
食べられちゃうからあ！！

あつあ…

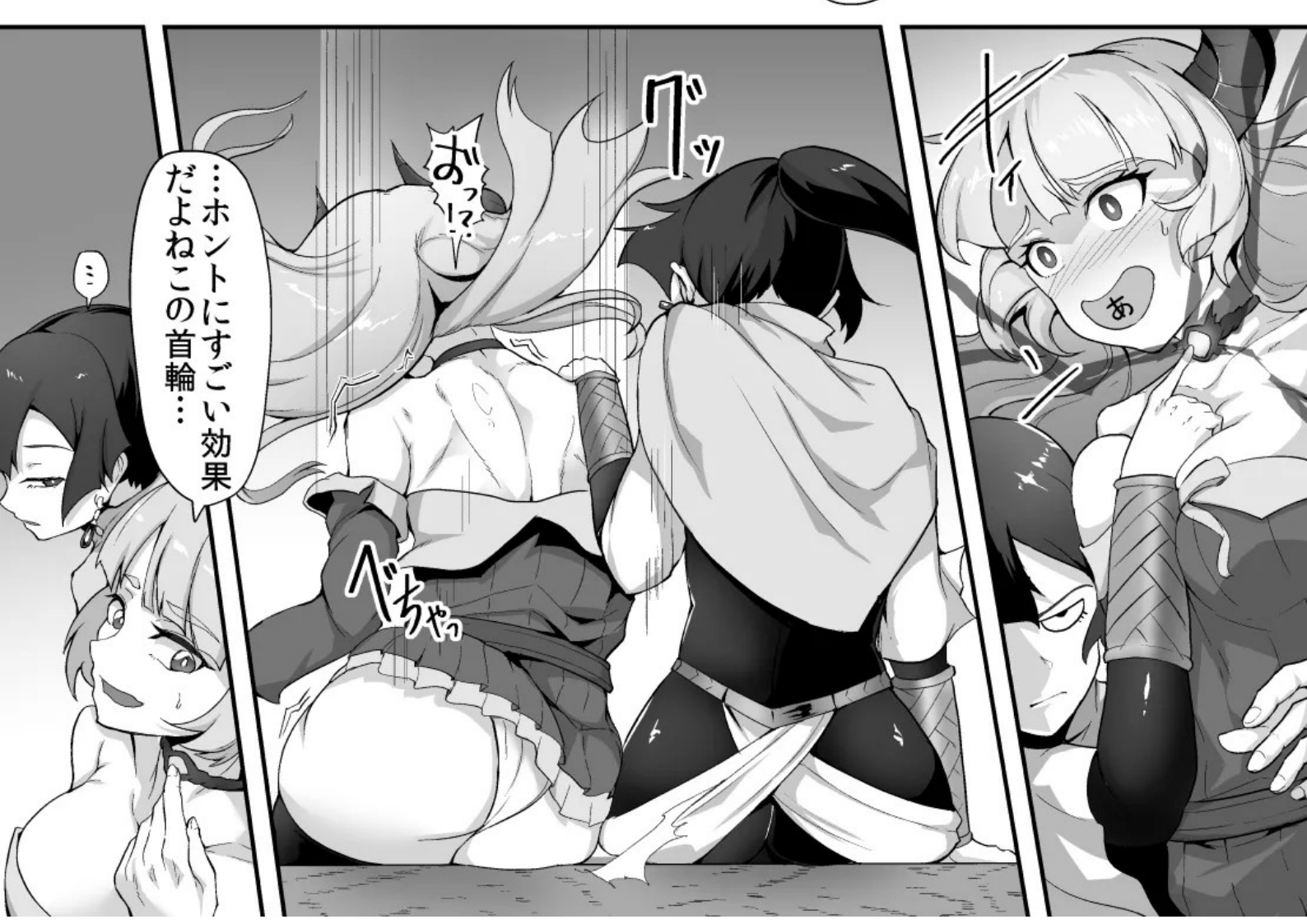
殺さないで…

精子ッ精子いっぱい
出していいから…

もつと気持ちよく
するから…ね…？









ベルマリア
最近はドラゴン討伐の
準備で忙しかったものね

るんっ
はん?

ブルッ



少しは「解消」したい
方がいんじゃない

待ってシヤンテ
これはシヤレに
なっていない...

貴女...
毎回盛り上がって
くると「助けて」って
叫んでるけどね...

グアイッ

カバッ

ちと...

あれ本当に
気分悪いから
やめて

服が…
や…

パキッ

仲間を魔物に
わざと襲わせ
てるのよ？

万が一が起こらない
予防ぐらいしてるに
決まってるでしょ

分かったから
離して…よ…

バサッ



お願いっ
これはシヤレに
なつてない…
あっ?!

分かったから…
ごめんんん?!

ドゥ

ギョウ

ビュッ



あっ…はっ

見ないで…



団長は弾いてる間は
手元しか見てないわよ

ギョウ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

ギョウ

私の友人が貴女
しかいないって？
からかわないで

貴女にとつては
私は沢山いる内の
一人だものね：

ちが：私
だつてえぐッ♡

声抑えて
流石にバレ
るわよ

キゅるるる



あれ？
ベルマリアまで
酔い潰れたの？

ドキッ

コイツの肩出し服
この角度だと全裸に
見えるよな笑

下品な冗談ね
あっち行って

へいへい

しかしお前らしい
コンビになつたよな
これからも仲良く
やってくれよ

…そうね

ギョッ

ちよつとベルマリア
腰一回浮かせて

手挟まつて
動かせない

…んっ

何でますます
押し付けるのよ

私…シヤンテには
敵わないから…

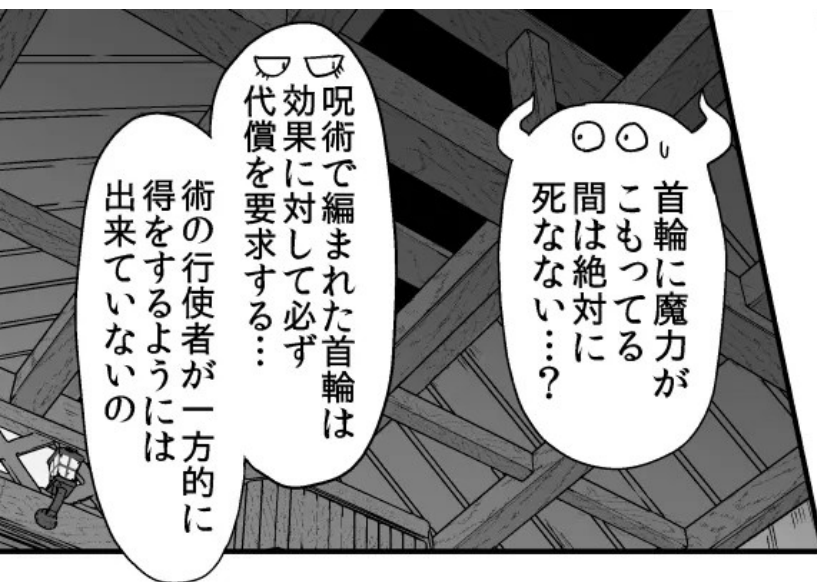
もうとつくに首輪の
効果切れてるわよ！

ツチ

ビョウ

ビョウ





…もう一回だけ

首輪に魔力がこもってる間は絶対に死なない…？

呪術で編まれた首輪は効果に対して必ず代償を要求する…

術の行使者が一方的に得をするようには出来ていないの





何言ってるの!
今が稼ぎ時じゃん!

ベルマリア
貴女ね…

まあまあ
ベルマリアも
こう言ってるし…



貴女に何かあったら
今のメンパーは誰も
貴女の助けになれない

心配しすぎだよ
シヤンテは
シヤンテのおかげで
私今までに
調子がいいんだ



今なら誰にも
負ける気が
しないから



強力な
溶解液!?

下殺す
ボウ
ボウ



武器も
溶かされた...

シヤンテ逃げよう!
もう私達しかない!

ベルマリア...



ズザッ



こいつは私達も
逃さないつもり
みたい

とにかく防護の
魔術だけでも...

シヤンテ
危ないっ!!

ぐっ!?

溶っ

早ッ...!?

ズオッ

ドッ
ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ



輝きよ！我らの
身を纏いて護れ！

ダイヤモンドスキン
金剛鎧皮！

服分

バシッ



ありがと
シヤンテ…

術が効いている内に
なんとか脱出を…

あっ!?

ベルマリア！
離れないで！
術が維持出来ない！

アッ

アッ

アッ

アッ



ググググ

ググググ

ググググ

ドクドク

シヤンテツ
大丈夫ツ？

私はあ…ツ
慣れてるけど…
へへ…あッ

バカッ…言つて
ないで…絶対
離さないで

溶解に耐えるので
精一杯なのツ…
我慢してて…！あッ

ドク

グググ

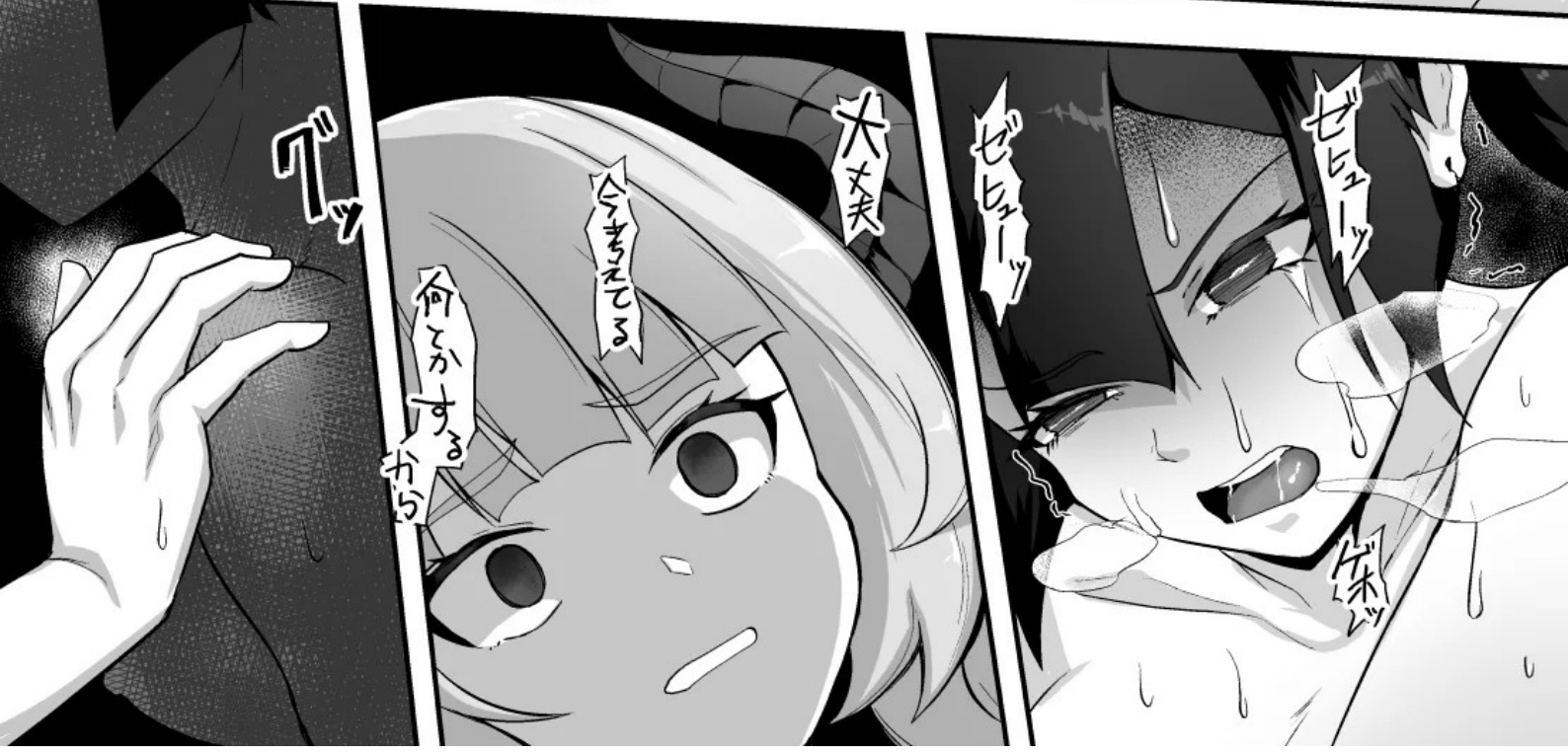
ドク

グググ



この化け物… 私達を中から 消化しようと…

シヤンテ平気？ どうしよう… このままじゃ…



何とかなるから

今もってる

大丈夫

ガッ

ゼッ

ゼッ

ゼッ

離すなって
言った…!!

バカでしょシヤンテ!?!
この術って維持に
どれだけ魔力使うの!?!

私は見捨てて!
一人ならなんとか
なるかもだから!!

嫌よ…

嫌って何!?!
シヤンテは
魔術師でしょ!?!

何でも出来る!
私のことだつて
これまでずっと…!!

一人だけでも
助かって!!
お願い!!







何...してるの...
これじゃ私何もつ
シヤンテ!?

ズ
ズ
ズ



首輪の効果
忘れた?

魔力を込めた時間だけ
弱体化する代わりに
絶対に死にはしない

ちよつと!?何言つて
んのふざけないで!!

ありつたけ込めた
から1年は保つ

これだけ凶悪な
魔物：きつと誰かが
討伐に来てくれる

ドギャッ
ミニ

シャンテッ!
自分を守つて
死んじゃうつ

誰も来なくて
ムダに苦しみを
伸ばすだけかも
その時は私を
恨みなさい

ドロッ

アッ
ハッ

…そうだ
私貴女のこと
嫌いだったの

魔物に犯されて
喜んでる貴女は
滑稽だったわ

死んじゃうつ

シャンテッ
まへへ
ドギャッ

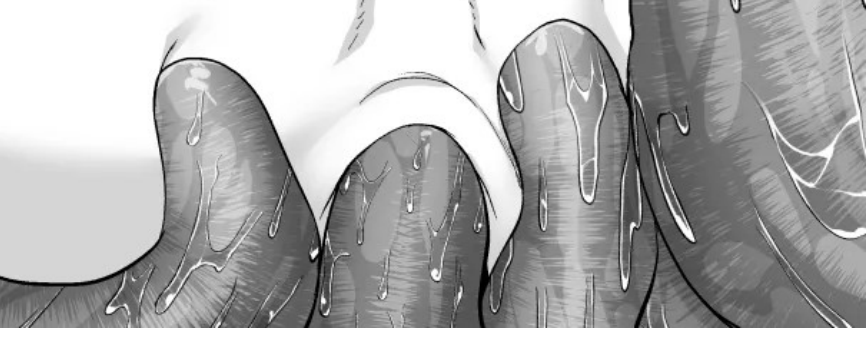
ドギャッ

おっ
おっ

おっ
おっ

アッ
アッ

アッ



だから...
んぐっ...

ふっう...あ

もう...
だめか...

ねがごめ

ぐあや

じゅぶっ

：貴女が後遺症に
苛まれていたのは
すぐに気付いた

酷似する症例を
いくつも知って
いたから…

ベルマリアの様子は
どうだった？

最悪…退団も
ありえるか…

それが
滑稽でね

少しいじめて
やろうかと思っただけ

彼女の退団は
待つてください

私の話を聞いて
いただけませんか

え？いやまだ
そこまでの
話では…

彼女の散漫さは心因性です
それだけを何とかすれば
彼女はギルドの最大戦力です

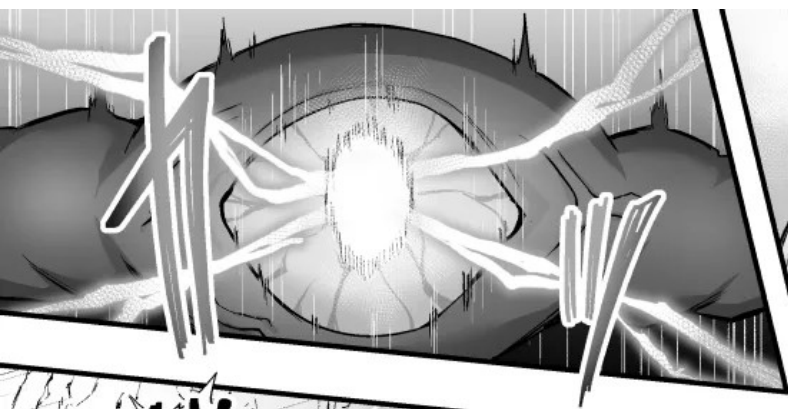
私が彼女を
何とかします

ベルマリアは
私が治します！

落ち着けて…
でもまあ治せる
ならありがたいよ

本当に…
それだけ

それにしても
シヤンテ…



嫌いなんで嘘ツ！
そんな人を命懸けで
助けるわけ無いツ！！

ギョウウウウ



馬鹿ね…首輪の
呪いに抗うなんて…

嫌
ああ！！

ブルウウウ



嘘ツ！私は好きよ
シヤンテのこと！
言って！



さびし…くらしい
しずかに…してよ
そういうところも
…きらい…

チヤッ

ポッ

ポッ

ポッ



嫌がッ!!

離してッ!!



あッあ...

なんだよお...
「かも」って...

ボ
チ
ャッ



あッ!?

グ
パッ

グ
グッ

待って!
そこにシヤンテがっ
お願いっせめて
ここにいさせて...

私一人だけが
粘膜を擦られて
快楽に敗けてる

ひびやあー!!

ズググ

ズググ

ズググ

私だけバカじゃん
そんなの……!

ズググ

惨めだよ……

やだ……もう気持ち
いいの嫌だ……

ズググ

ズググ

ズググ

ズググ

ズググ

ズググ

ズググ

ズググ

ズググ



ギョッ

あっ!? 駄目っ!?

何でっ
乳首関係
ないよっ!?

ギョッ

おっ

ギョッ



ブーン!?

ギョッ



ギョッ

はいらないからさっ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ



ほれほれ

助けて...

ドブ

ガク

あふ

あふ

ガク

ガク

ガク

ガク

そこ違うう：
乳首壊れ
ちやうからあ...



助けて...

へい

ボクッ

ボクッ

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

飲み込まれてから
どれ程の時間が
経ったのだろう…

私が出れることと言えば
快楽に悶えてビクビクと
身体を震わせるだけ…

それでも…
時折少しだけ責めが
軽くなった時だけ
私は正気でいられた

その時間で私はようやく
シヤンテとの会話を
思い出すことが出来た

くっぴり

ん

んんん

んんん

あう…

その日は珍しく
シヤンテが深酒じて
口を滑らせていた

レマデ

「たまたま同じ依頼を
受けて私のギルドと
協力したその帰り…」



「マジマジ」

「魔術師ウチにいない
から困ってたんだ！
このまま入団しなよ」

「団長もいいよね！
決定！よろしく！」

それがシヤンテには
とても嬉しかった
らしく

私は思わず
「そんなことで？」
と言ってしまったが



「そんないふで。」



54
ニハハハ



やっと思
い出した

でもおし
すぐに
忘れちゃう



ズッ

おっ
おっ
入るよ...

もう心
持たないんだ

おしり
せなよ...

おっ

ハッ

トッ

おっ
おっ
おっ

もうさうさうおね...?

来るか分からない
助けを待って
いつまでも
耐えられない

毎日気持ちよく
されちゃって...
とっくに身体は
屈してるの...

もう諦めよう

そうすれば
何も辛くは
なくなる

くぽ、

くぽ、

キーン

くぽ、

キーン

くぽ、

くぽ、

くぽ、

くぽ、

もういいよね
シヤンテ

もうっかして
もう少しだけ
我慢するから

くぽ、
くぽ、
くぽ、
くぽ、
くぽ、



もう少しだけ……
もう少しだけ……
頑張った……

181'21'59

END



鉄槌の女戦士

魔物に負ける妄想
をこじらせ

死ぬより酷い目にあう